

ヨハネによる福音書13章31～35節

13:31 さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。13:32 神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる。13:33 子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。『わたしが行く所にあなたたちは来ることができない』とユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。13:34 あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。13:35 互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」

＜説教＞ 『キリストの掟、互いに愛し合いなさい。』

◆只今朗読されました聖書の御言葉を通して、私たちの主イエス・キリストの御言葉を賜りたく思います。朗読されましたのはヨハネによる福音書13章31節～35節であります。ここに「新しい掟」という小見出しが付いておりますが、今日の箇所の前部分と後の部分をご覧になりますと、前の部分は先週読みました「ユダの裏切り」の記事であります。弟子のイスカリオテのユダは過ぎ越しの食事の席でイエス様からパンを受け取ると、「すぐ出て行った、夜であった」とあります。そして今日の箇所の後には、なお晩餐の席に残っている弟子たちのことが記されております。そしてそこには「ペトロの離反の予告」の記事が出ております。そのような次第でありまして、今日の箇所は、「ユダの裏切り」と「ペトロの離反」の予告記事の間にあるのであります。

◆しかし、今、読まれましたように、今日の箇所において、主イエス・キリストは、「今や、人の子は栄光を受けた」と、おっしゃっているのであります。12弟子の中から主イエスを裏切る者が出、そして、主イエスとの関係を否認する者が出て来るのであります。その間にあって、主イエス様は、「今や、人の子は栄光を受けた」と言われるのであります。「人の子」というのはイエス様の自称であります。その「人の子・主イエス・キリスト」が、「今や、人の子は栄光を受けた」とおっしゃるのであります。これは普通には考えられないことでもあります。主イエスの最も側近くいて起居を共にし、主の伝道の業に与ってきた者の中から裏切り者が出、また主イエスとの関係を否認する者が出てくるのであります。そのような中で「人の子は栄光を受けた」というのは少し違うのではないかと私たちは思うのであります。けれども主イエス・キリストは、「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる」と言われるのですが、同時に「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」という、新しい掟を

弟子たちに授与されたのであります。この様に弟子の裏切り、離反があっても、主イエスの御愛は崩れません。私たちも、それぞれの人生において裏切り、裏切られるという辛い経験をいたします。30 節に「ユダはパン切れを受け取ると、すぐ出て行った。夜であった」とありますように、裏切りは、人を闇の淵、滅びの淵に引きずり込むのであります。

◆けれども、今日の聖書においては、弟子の裏切りがあり、弟子の離反が起るのですが、しかしその中で主イエス・キリストは、「今や、人の子は栄光を受けた」と宣言されるのです。つまりこれは、神の御心が「成就された。」「達成された」との意味であります。「栄光」とは、比肩すべきもののない栄誉のことです。元来、それは、ただ神にのみ帰せられるべきものであります。ですから、「栄光を受けた」とは、主イエス様と神様の一体性の確認でもあります。このような次第でありまして、私たちの人生には様々なことが起こるのでありますが、私たちに対する主イエスの御愛は、神の愛は、何が崩れても崩れないのであります。そして今日このように神様を礼拝し、イエス様を仰ぎ、私たちも主の御愛の中に、これまで、これから、そして今現在もあるわけです。私たちの心にかかる者たちも、この崩れることのない主の御愛の中に、今も、これからあります。ですから私たちは、今日の聖書における主イエス様の御言葉を聞き、御姿を見る時に、私たちはすべての恐れ、不安を、主イエス・キリストの御愛と善き導きの御手に委ねることができるのであります。

◆31 節、32 節を御覧ください。「さて、ユダが出て行くと、イエスは言われた。『今や、人の子は栄光を受けた。神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかもすぐにお与えになる』と、あります。今、繰り返し申しましたように、弟子の裏切りがあり、そして弟子の離反・否認があるにも関わらず、主イエスは父なる神と御一体の方として、その父の御心を行われて、神の栄光を現わされるので、またご自身も父なる神様から栄光を受けるのだと、このようにおっしゃっているわけです。「人の子」はイエス様の自称であり、終末時の審判者・救済者のことだと上で申しました。今や、主イエス・キリストにおいて、最後の言葉と審判、そしてその裁きからの救いが成就したのです。そういう意味において、イエス様は、「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった」と、言われるのであります。

◆この「人の子」という言葉の意味について、今日も日曜学校で、ルカによる福音書 19 章 1 節～10 節にある「徴税人ザアカイの物語」を子どもたちと一緒に読みました。子どもたちも何回も聞き、何回も紙芝居で見た物語です。しかし、何回も聞いて、その筋は分かっている。しかしそのことをもう一度新しく聞くことが大事なのだと子どもたちに言ったところでありました。そしてこのザアカイ物語の最後のところ、19 章 10 節に、主イエス・キリストの御言葉があります。「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」と。この御言葉は、主イエス・キリストの御業の中核を、主ご自身が語られたものであります。「失われたもの」は、直訳すると「完全に滅んだ者」です。「私は完全に滅んだ者を捜して救う。」これが主イエスの御業であり、聖書の福音の骨子であります。

◆正に、「今や、人の子は栄光を受けた。神も人の子によって栄光をお受けになった。神が人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も御自身によって人の子に栄光をお与えになる。しかも、すぐにお与えになる」と、主が語られる時、ユダは闇に転げ落ち、

彼は主が十字架にかかれる前に自殺してしまうのです。そしてイエス様が裁きを受けている時、弟子のペトロはイエス様との関係を三度、否認します。このように、ユダもペトロも闇に落ちます。けれども主イエス・キリストは「完全に滅んだ者をも捜して救い給う」のです。そういう次第でありまして、イエス様はこの様な裏切り、否認にも関わらず、これまで歩いてこられた道を、歩み抜かれるのです。ですから普通に考えれば、このような状態は耐えがたいものでありますが、このような苦難の只中で愛を貫かれます。これこそ主イエス・キリストにおいて表された神の真実であります。そして私たちもまた、今日の御言葉を通して、この愛の中にある事を信じて歩むように、招かれているのであります。

◆それにしましても、今日の箇所は、「最後の晩餐」の席上のことであります。ですから、正に主イエスの御言葉は遺言であります。ご存じのように、過ぎ越しの食事は旧約聖書の根柢にある神の救済の出来事、「出エジプトの記念の食事」であります。そして記念するとは昔を思い起こすことですが、それは同時に、今・ここにおける生ける神様を仰ぐことであります。そしてイエス様の十字架の死を通して、私たちはこれを「聖餐式」と言います。

「聖餐式」はイエス様による十字架の「贖罪の犠牲」と終わりの日に与る「主の祝宴」を告げるものであります。私たちは今日、「聖餐式」に与るのですが、聖餐式の式辞にこうあります。「わたしたちは今、主イエス・キリストによって制定された聖餐に与ろうとしています。これは主イエス・キリストが十字架につき、わたしたち罪人の救いのために成就してくださった贖罪の犠牲を表すものであり、終わりの日に与る主の祝宴をあらかじめ告げるものであります。これは使徒たちによって伝えられ、世々の教会がそれを受けて御言葉の説教と共に、終わりの日まで繰り返し守りつづけるべきものであります。栄光の主は聖霊において私たちの食卓に共にいまし、信仰をもってこれに与る者の内に働き、交わりを新たにし、罪の赦しと永遠の生命の約束を固くし、教会の一致を保たせてくださいます。」幾度、私達はこの式辞を聞いてきたことでしょう。今読みました通りの事に私たちは、今、与かろうとしています。私たちは、正にこの主の日の礼拝において、生ける神様を仰ぎ、生けるイエス様を仰ぎ、御霊のご支配のもとにあります。世には色々な儀式がありますが、この聖餐式に代わる礼典はありません。これに代わる祝福はないのであります。

◆33節を御覧ください。「子たちよ、いましばらく、わたしはあなたがたと共にいる。あなたがたはわたしを捜すだろう。わたしが行く所にあなたがたは来ることができない。ユダヤ人たちに言ったように、今、あなたがたにも同じことを言うておく。」私たちは今日の箇所の前も後ろも、旧約聖書も、十字架のことも、聖書を通して読むことができます。けれども今日聖書に記されている、そのことが現になされていた時には、イエス様がおっしゃることを弟子たちは理解できませんでした。これは私たちもイエス様の語られること、為されたこと、為そうとされることの全容と真相を理解する事はできないことであります。なぜなら、主イエス・キリストの語られる事、為される御業は、前代未聞のことだからであります。裏切りの中にありながらも弟子たちに「子たちよ」とよびかけておられます。それにしても愛あふれる呼びかけであります。父なる神様と御一体であられる主イエス・キリストの呼びかけ、「子たちよ」です。まさにイエス様は裏切りも否認も彼らが落ちて行く挫折も見通しておられるわけですがけれども、しかし、彼らの再起・再生への揺るぎない

確信を込めて語っておられます。彼らは、今は分からないけれども分かる時が必ず来る、という確信のもとにイエス様は語っておられるのであります。

◆そして 34 節では、「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」と、おっしゃいます。この「新しい掟」の、「新しい」は、時の新しさではなく、質的な新しさを表わす言葉です。「新しい掟」、今まで誰も知らなかった、昔であれ、これからであれ、誰も知らなかった、「新しい掟」であります。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」正にこれは、イエス・キリストによって実行され、示された愛であります。そして神様の真実の愛であります。先週古めかしい言葉を使いました。「絶対の恩寵」、「絶対の赦罪」。ですから今、ユダの裏切りがあり、そしてペトロの否認がありますけれども、それらを買いて、イエス様はユダをもペトロをも愛し抜かれるのです。ですからイエス様は「今は分からない」と言われます。分からないけれども、それは人生の通過点である、苦しい通過点でありますけれども、必ず彼らは命に立ち返る。

◆12 章 50 節にこうありました。「父の命令は永遠の命であることをわたしは知っている。だからわたしが語ることは父がわたしに命じられたままに語っているのである。」因みに、ここの「命令」と今日の箇所における「掟」は同じ言葉です。そして「弟子の洗足」の記事があり、そしてユダの裏切りがあってペトロの否認へと続くわけです。今ここで、「愛」と言われても、それがどの程度のものか分った者はおりません。けれども、やがて彼らが恐れに閉ざされていた時に、イエス様がその部屋に入って来られ、「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす」と語られた時、彼らはイエス様における神様の愛が、イエス様の愛の何たるかに、目覚めます。そしてその目覚めの中で彼らは再起したのでした。

◆35 節にこうあります。「互いに愛し合うならばそれによってあなたがたがわたしの弟子であることを皆知るようになる。」これが裏切りと否認の間における主イエス・キリストの愛の貫徹と不動の確信であります。そしてこれは、かつて、弟子たちに言われたのですが、今日ここに在る私たちへの新しい掟、戒めであり、イエス様の聖なる求めであります。「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように互いに愛し合いなさい。」「あなたがたに平和があるように。父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。」この二つの御言葉を、私たちは、今一度、心に刻み、ただ御栄光が現れること求めつつ、これからの日々を歩みたく思います。

◆お祈りいたします。

愛に富み給う主イエス・キリストの父なる神様。

今日このように御前に集められ、礼拝をささげ、主イエス・キリストの御言葉を通し、私たちがいかに愛されているか、赦されているか、期待されているか、そのことを新たに覚え感謝いたします。どうか御霊なる主よ、わたしたちの内に生きて働き給うて、どうか御心に適う歩みができますように、あなたの御心が地になり、この世界に成りますように、そのために身を献げて仕える者たちとならしめてください。

この祈り主イエス・キリストの御名を通し、御前にお捧げいたします。アーメン。